

株価バリュエーションから、 割安感がみられる日本株式

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

2月以降、日本株式は不安定な展開が続いており(グラフ①)、足元の株価バリュエーションは、PBR1.2倍(日経平均株価、3月14日現在)、予想PER12.8倍(同)まで低下しています(グラフ②)。

一般に、株価バリュエーションが低水準の時は、株価が割安と判断されやすいことなどから、その後の株価リターンは高くなる傾向にあるとされています。過去データを用いて、PBR・PERの水準とその後1年間の株価リターンの関係を見てみると、PBR・PERが低い時に投資したと仮定する場合、その後の株価リターンは高い傾向にあり、逆にPBR・PERが高い時は、その後の株価リターンが低い傾向にありました(グラフ③④)。

PBRは「株価÷BPS(1株当たり純資産)」、PERは「株価÷EPS(1株当たり純利益)」で計算され、株価が下落した場合や業績拡大などにより純資産や純利益が増加した場合、PBRやPERは低下します。また、投資家が重視するROE(自己資本利益率)は「EPS÷BPS」で計算され、業績拡大などによってEPSが増加する場合や、株主還元(自社株買いや配当)などによって純利益が内部留保されない場合、ROEは向上します。この3つの株価指標は、「 $PER = PBR \div ROE$ 」という関係式が成り立つことから、ROEが向上すれば、PERの低下が見込まれ、株価の割安感からその後の株価リターンの向上が期待されます。

足元では、国内政治動向および、米国の保護主義的な動きや政権幹部の交代など不透明感がみられますが、日本企業のROEは2017年度に過去最高水準の10%を超える見通しに加え、足元の株価バリュエーションは過去平均と比べても低水準となっていることなどから、日本株式は投資魅力があると考えられます。

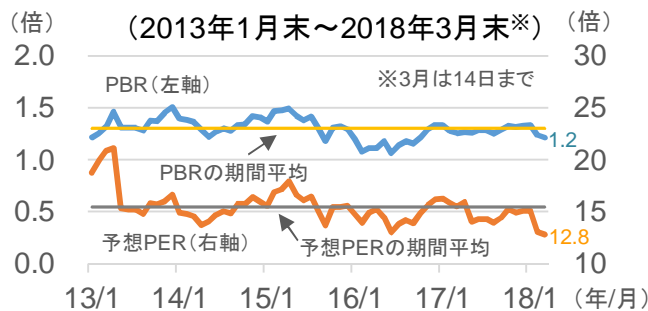
① 日経平均株価の推移

(2013年1月末～2018年3月末※)



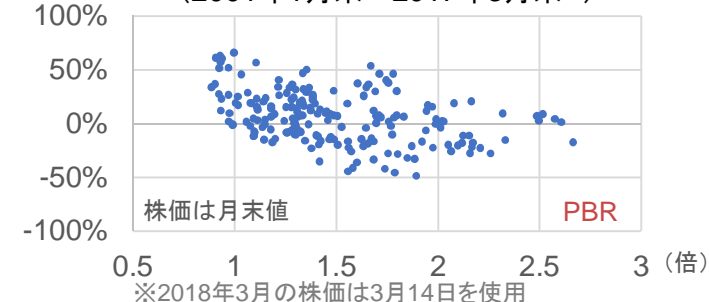
② 日経平均株価のPBR・予想PERの推移

(2013年1月末～2018年3月末※)



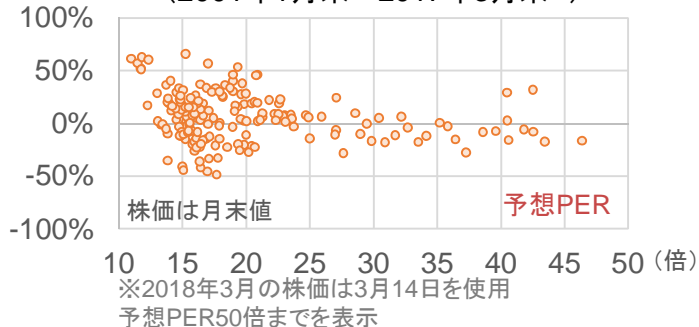
③ PBRと1年後株価リターン

(2001年1月末～2017年3月末※)



④ 予想PERと1年後株価リターン

(2001年1月末～2017年3月末※)



(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。